

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2021年 2月 6日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」新越谷校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		カーテンで区切り個室を確保している。	
	②	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		最低人員＋加配要員を確保している	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		利用児童の障害特性に合わせて対応している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		毎朝、清掃を行い清潔を保っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		毎週、会議を行い情報共有している。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		毎年アンケートを実施しご意見を参考に改善に向け行動している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		弊社 HP（各事業所ページ）で閲覧＋事業所内ファイルで公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<input type="radio"/>		発達支援研究所との連携を行い業務改善を行っている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		発達支援研究所主催の研修＋ブロック内の事例検討会等で研修を実施している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		アセスメントシートを活用しお子さんの成長の確認を行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		会社で配布されたシートを活用している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		児童発達支援ガイドラインに準拠し対応を実施。	

関係機関や保護者との連携	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個別支援計画をもとに支援プログラムを策定している。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎週のミーティングで支援内容について話し合いを行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		指導員同士で支援内容が被らないように情報共有を行っている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している		○	コロナ禍において集団指導は行っていない。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ミーティング以外でも気づいた点は情報共有し支援に活かしている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	毎日行っていないが週に1回は情報共有の時間を設け実施している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援の記録を取り情報共有することで飽きさせないように取り組んでいる。	
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月ごとのモニタリングを実施し検証している。	
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○	参加要請があった際に参加。通常は電話連絡等で実施。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		発達支援研究所と連携を行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	医療的ケアが必要なお子さん、重症心身障害児のご利用はない	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	非該当	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	非該当	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	非該当	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		今年度はコロナ禍にあり、研修等が中止になっている。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	交流の機会がないため未実施。	

	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	越谷市の連絡会もあるが会合機会がないため参加できていない。	
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		支援後に保護者へ振り返りを実施している。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	現状は、個別に相談のみとなっているため関わり方なども今後提供していきたい。	
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧な説明、読み合わせを実施している。	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		個別支援計画はニーズ、目標、支援内容を読み合わせを行い同意いただいている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		電話や対面、LINEなどで対応している。	
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今年度はコロナ禍のため未実施だったが今後再開していきたい。	
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談の依頼があった際には支援のない時間帯で保護者と対応できるよう配慮をしている。	
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報等の発行は行っていないが、事業所内の掲示、ブログ、LINEタイムラインで発信している。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○		退勤時には施錠できるところで保管している。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		利用者の障害特性を把握したうえで関わり方で対応している。	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所について、管理会社やオーナーさんにご理解を頂き近隣店舗の方にもご理解いただいている。	
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		月に1度訓練を実施。実施要綱について事業所内に掲示後に実施。
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月に一度訓練を実施している。	
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		面談時に既往歴をお伺いし、事業所で配慮しなければならないことなどを確認している。	
④4		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	食事提供のない事業所のため非該当	

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		他事業所のヒヤリハット報告書も確認し情報を共有。自事業所でも記載できるように対応している。	
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に一度、虐待に関する研修をマニュアルに沿って読み合わせを実施。	
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束が必要ない声掛け、対応方法などを指導員と共有し事故を未然に防いでいる。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2021年 2月 6日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」新越谷校

保護者等数（児童数）：6 回収数：4 割合：67%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	2	2				
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	3			1	言語聴覚士の資格を持っている先生がいないのはわかっているが他の教室にいる言語聴覚士の先生に指導を仰いでいるか。	ケースによっては他校舎の言語聴覚士と連携をとっております。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	1	2		1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	2	2				
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	2	1		1		
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	3			1		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	4					
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1		2	1	そのようなことを聞いたことがない。	現状、難しいが今後検討していきたい。
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	4					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	1	1	1	1		

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	2	2				
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	1	1	1	1	面談なし	面談については希望される方に随時行っております。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		1	2	1		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	2	1		1		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	0	2	1	1		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	4					
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	2	1		1		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	1		2		
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	3	1				
	㉓	事業所の支援に満足しているか	3	1				

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。